

大成ロテックと 塚本工務店に交付

建災防、コスモス認定

建設業労働災害防止協会（建災防、錢高一善会長）は28日、大成ロテック、塚本工務店（群馬県藤岡市）にそれぞれ建設業労働安全衛生マネジメントシステム（コスモス）の認定証を交付した。両社の運用する労働安全衛生マネジメントシステムが基準を満たすことを確認した。大成ロテックは、本社と9支社の一括認定となっている。塚本工務店は群馬県に本社を置く地域建設会社としては第1号



田中専務理事⑤と西田社長

の認定取得となる。

大成ロテックの西田義則社長、塚本工務店の塚本定夫社長が田中正晴建災防専務理事から東京都内で同日、認定証を受け取った。両社の認定に伴い、コスモス認定を取得している建設事業場などは123件（103社）、適用事業場は264カ所となった。建災防は19年1月13日付で中部土木（名古屋市長区、難波陽一社長）の認定を更新することになっている。



塚本社長⑥

的にPDCA（計画・実行・評価・改善）を回し、改善しながら注力しないといけない」と安全衛生活動のさらなる強化に意欲を見せた。その上で「3カ年計画の柱の一つに安全を挙げており、象徴がこの認証になる」と述べた。工事件数の8割ほどを占める地域に密着した小規模な工事を含め、組織だった安全活動を推進する考えも示した。

塚本社長は、「ISOを10年運用し、品質を巡る取り組みは進歩させられた。事故を起こさないよう、コスモス認定を取得することにした」と取得の理由を説明した。同社は安全大会、協力会社の経営者などの安全研修、安全関連の取り組みを振り返る安全衛生評議会の運用に力を入れている。塚本社長は「品質はやり直しができるが、命は返ってこないことを戒められている」と述べ、安全対策をさらに徹底する方針を明らかにした。